

窓辺

可美村

いけの
池野
ふみあき
文昭

私は1967年、現在の浜松市南区高塚町に生まれた。91年に浜松市に合併されるまでは「可美村」。ローマとバチカン市国のように、周囲を浜松市に囲まれた小さな村だった。村立幼稚園から小学校、中学校までの11年間、変わらぬ同級生たちと皆一緒に成長した。今でも同級生の名前と顔が皆一致する。狭い世界だった。

村外の県立浜松北高に初めて通った時、開放感に躍動した。高校卒業後、県外

の世界を見たくなり、関東の自治医大に進学した。毎日が発見だった。医師として静岡に戻り、県内の病院に9年間勤務したが、今度には日本の外を見たくてまらなくなり、17年前に渡米した。今でも毎日が刺激的だ。

その一方、米国の生活は弱肉強食。毎日がサバイバルである。米国ではマイノリティーの日本人。人種の壁にぶち当たることも正直ある。しかし、自分は紛れもなく日本人であり、それ

が異国において自分に自信を与える唯一のアイデンティティーであると気付く。

海外に長く住む多くの日本人が少なからず感じている事がある。それは、母国・故郷への思いが、年々強くなっていくという事である。日本の発展を祈る気持ち、故郷への思いだ。

可美村から始まった自分の人生。何時も、好奇心を満たすため外へ外へと出てきた。しかし米国に住み、今度は次第に異国から故郷を思い、回帰する気持ちが強くなってきた。今、異国からわが故郷・静岡県に貢献する事を考えている。

スタンフォード大
主任研究員、医師